

若手研究者国際短期派遣事業（キャリアアップ支援）の支援を受け、2018年1月8日から17日までの間、ドイツにて3カ所の研究室訪問、およびスイスでの学会発表を行いました。訪問したのはフライブルク大学の Meier 博士の研究グループ、フンボルト大学（ベルリン）の Seitz 教授、ライプニッツ研究所（ベルリン）の Hackenberger 教授の研究室で、それぞれにおいて、先生とディスカッション・20分ほどのプレゼンテーション・ラボツアーをしました。今回の滞中で、来年から Meier 研でポスドクとして研究することが決まりました。

Meier 先生とは渡航前に一度スカイプをしており、一度直接会ってイメージと違っていたり合わなかったらやめたらいい、という返事をいただいていた。また、留学前にフェローシップに応募するための準備もしなければいけません。したがって、今回の訪問は先生と直接話をするに加えて、実験設備や技術を見学すること、研究室の雰囲気を見学すること、留学後の研究内容に関して議論をすること、を目的としていました。Meier 研はマイクロ流体デバイスを用いた細胞培養による分化研究を行っています。私自身が現在行っている研究とは異なる分野であり、大きな不安がありました。今回、直接話を聞き、実験設備を見せてもらい、論文からは掴み切れなかったデバイス構造の細部や、細胞を培養する様子を見学することができました。

キャリアアップ支援のための援助は非常に珍しいですが、とても有意義で、有り難かったです。まず、アプラインをするメールに「研究室を訪問したい（できる）」という旨を書くことができたため、積極性が伝わった（と思っています）し、その後の先生との話が進みやすかったです。さらに、直接訪問できるので、論文やメールのやり取りなどではわからない研究室の設備や技術・周りの環境を見ることができます。このことは、私に新しい分野に飛び込むことを後押ししてくれました。加えて、フェローシップの研究計画のために、研究室の設備を見学し先生と直接ディスカッションできるという利点があると思います。今後、この経験を十分に活かして渡航準備をしていきたいです。

海外で研究することに対して不安はたくさんありますが、今回の渡航で受け入れ先の雰囲気を感じることができ、少し自信を持ってました。踏み出すきっかけをくださった化研の派遣事業、関係者の皆様方に心から感謝申し上げます。



スイス・ジュネーブ大学（学会会場）にて



ベルリン・ライプニッツ研究所 Hackenberger 教授とアテンドしてくれた学生と